

日本語TrueTypeフォントを使う

FOPではType1とTrueTypeフォントを使うことができるが、ユーザがフォントを追加して使えるようにするには、フォント・メトリックを記述したxml形式ファイルが必要になる。フォント・メトリック・ファイルは、FOPに付属しているツールで簡単に生成することができる。使うフォントは(WindozBoxでは使っていない)Canvas6付属のlwataフォントにする。

まず最初にフォント・メトリック・ファイルを生成して、つぎにフォントをFOPへ登録する。登録はuserconfig.xmlを編集して生成したフォント・メトリック・ファイルのパス、TrueTypeフォントファイルのパス、フォントの別名などを指定すればよい。userconfig.xmlのなかに記述例があるので参考にする。これで、さきほど登録したフォントをfoファイルのなかの font-familyで使うことができる。

FOPではType1とTrueTypeフォントを使うことができるが、ユーザがフォントを追加して使えるようにするには、フォント・メトリックを記述したxml形式ファイルが必要になる。フォント・メトリック・ファイルは、FOPに付属しているツールで簡単に生成することができる。使うフォントは(WindozBoxでは使っていない)Canvas6付属のlwataフォントにする。

まず最初にフォント・メトリック・ファイルを生成して、つぎにフォントをFOPへ登録する。登録はuserconfig.xmlを編集して生成したフォント・メトリック・ファイルのパス、TrueTypeフォントファイルのパス、フォントの別名などを指定すればよい。userconfig.xmlのなかに記述例があるので参考にする。これで、さきほど登録したフォントをfoファイルのなかの font-familyで使うことができる。